

# 国内グリーンボンド発行の動向 ~ジャパン・グリーンボンド・シンポジウム~

2019.3.1

株式会社日本総合研究所  
リサーチ・コンサルティング部門  
環境・エネルギー・資源戦略グループ  
高橋 沙織

## 目次

国内グリーンボンド発行概況	.....	2
国内先進発行体からのヒアリングに基づく、 円滑なグリーンボンド発行のための鍵	.....	6
グリーンボンド発行をご検討されている企業・ 自治体様へのメッセージ	.....	10

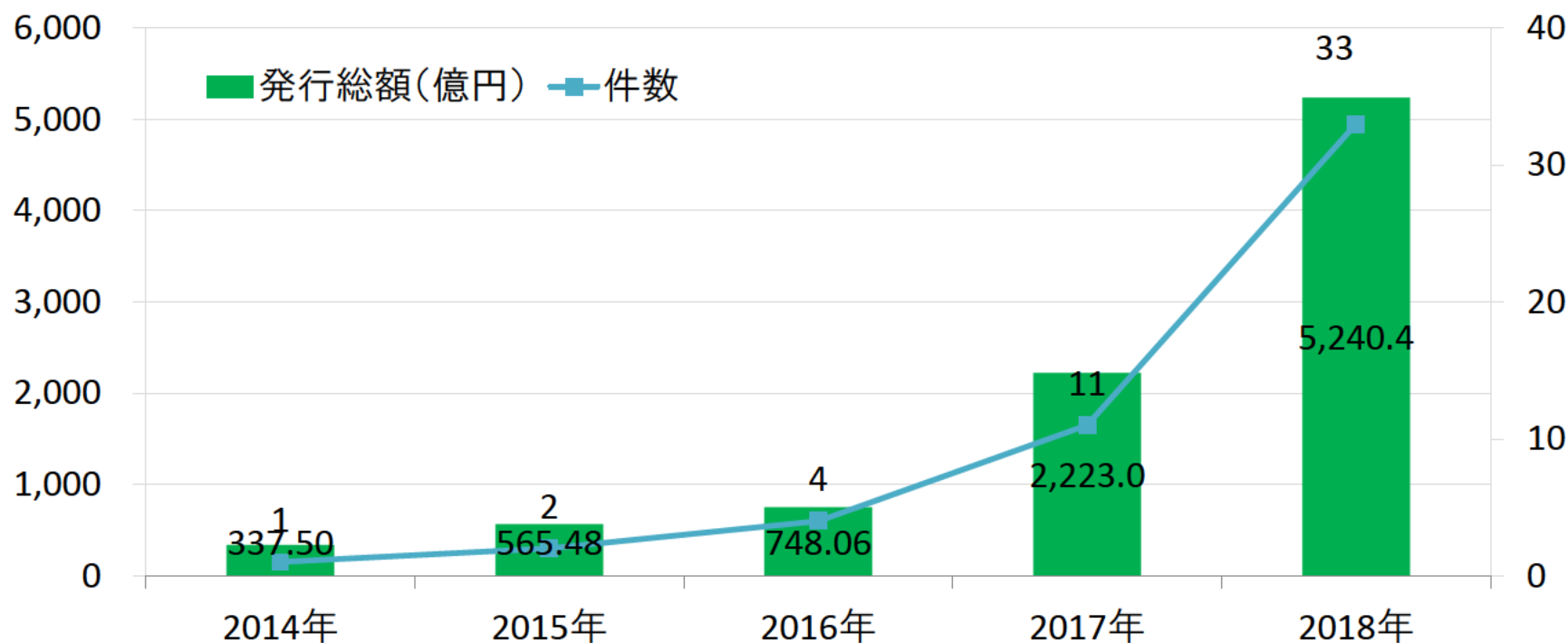
## 国内グリーンボンド発行概況

---

## 国内グリーンボンドの発行額推移

2018年のグリーンボンド発行額は2017年から約2.4倍となる約5,240億円となり、大幅に増加傾向にあります。件数は2017年から2018年にかけて3倍以上増加し、日本のグリーンボンド市場は大きく拡大しました。

グリーンボンド発行総額、件数の推移



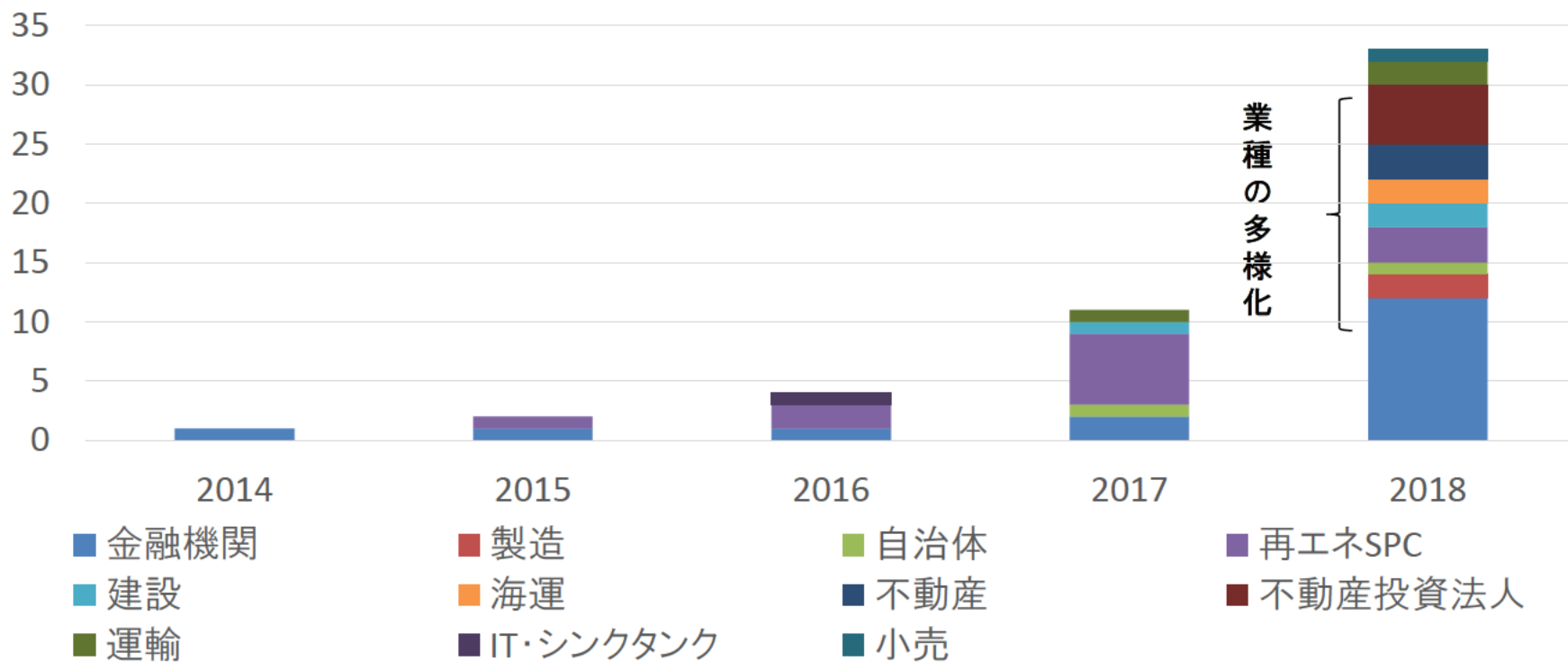
※2018年12月末までに、条件決定したグリーンボンドまでを含む。

出所:環境省、グリーンボンド発行促進プラットフォームより日本総研作成

## 業種別発行件数

2017年ごろから建設、製造、海運、不動産、不動産投資法人(REIT)、小売事業者からの発行が増加し、発行体の業種が多様化しています。

グリーンボンド発行体業種別の発行件数推移

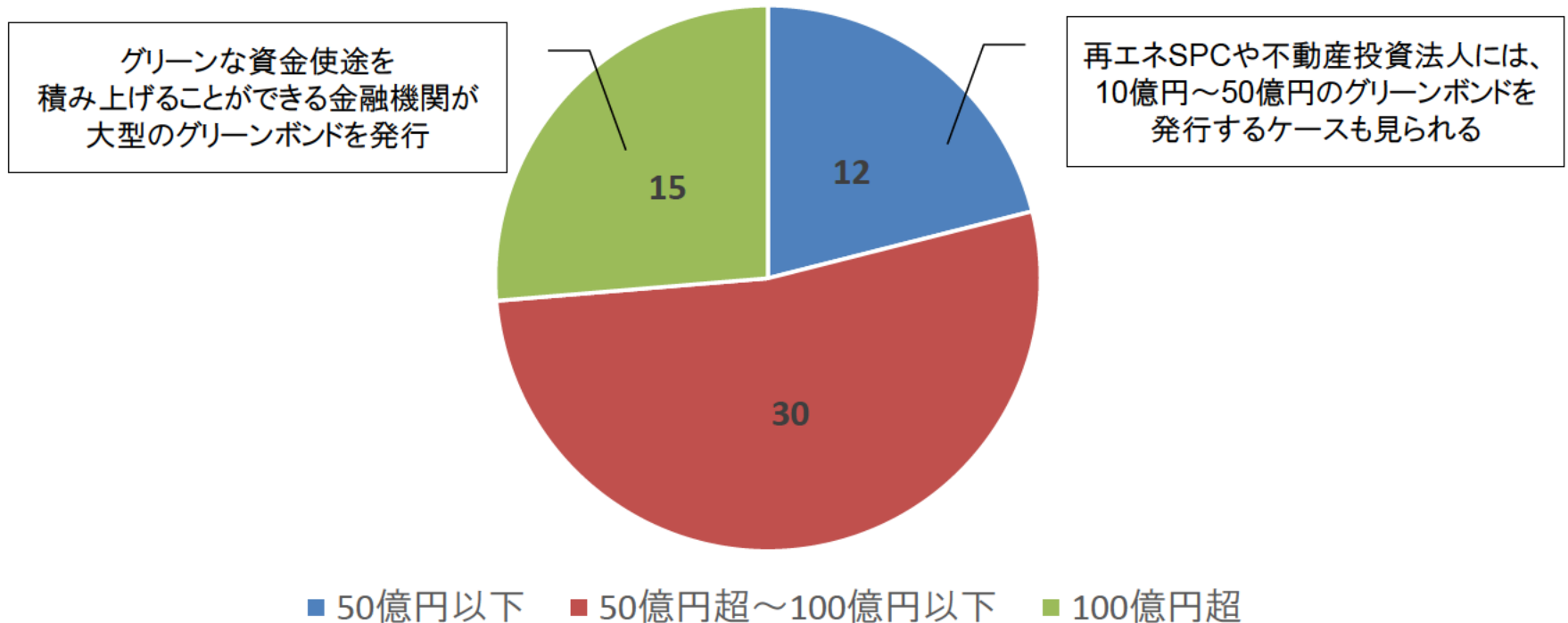


出所：日本総研作成

## 一件のグリーンボンド発行における発行額

一件のグリーンボンド発行額は50億円超～100億円が多いものの、再エネSPCや不動産投資法人の中には、50億円以下のグリーンボンドを発行する場合があります。

一件のグリーンボンド発行における発行額



出所：日本総研作成

## 国内先進発行体からのヒアリングに基づく、 円滑なグリーンボンド発行のための鍵

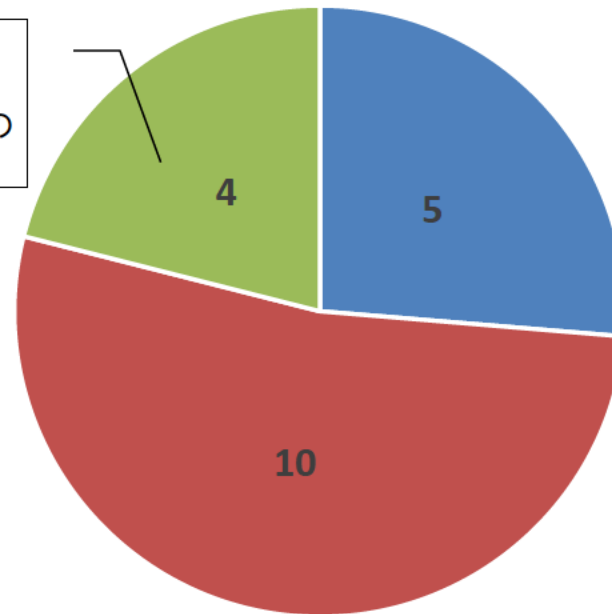
---

## 訴求力の高い発行に仕上げるための期間の確保

初回グリーンボンド発行には、最低2~3か月を要します。余裕のある発行準備を行うことで、自社に有利な金融環境を見極めた上で発行が可能です。また、2回目以降は発行期間を大きく削減できます。

グリーンボンド発行の社内のご検討開始から発行準備終了までの所要時間

ヒアリングベースでの回答のため、  
これらの発行体の中には  
国内市場が本格的に活性化する前の  
先進発行体を含む



■ 3ヶ月以下 ■ 4ヶ月～6ヶ月 ■ 6ヶ月超

出所：日本総研作成



## 社内・社外訴求力が高い発行ストーリーの設定

グリーンボンドの発行の前に、社内外に訴求力・説得力の高いグリーンボンド発行の動機やストーリー設定ができると、ステークホルダーの合意が得られやすく、発行の費用対効果を最大化することができます。

企業や自治体がグリーンボンドを発行するメリット

1	資金提供者層の拡大	14社*から同様の回答
2	ESG・サステナビリティに関する企業イメージ・外部評価の向上	9社*から同様の回答
3	(金融機関等の資金使途対象事業を短期間に追加することが可能である場合) ESG投資家の旺盛な需要を背景とした、当初発行額の増額	
4	社内の「ESG」に関する意識の共有や積極性の醸成	

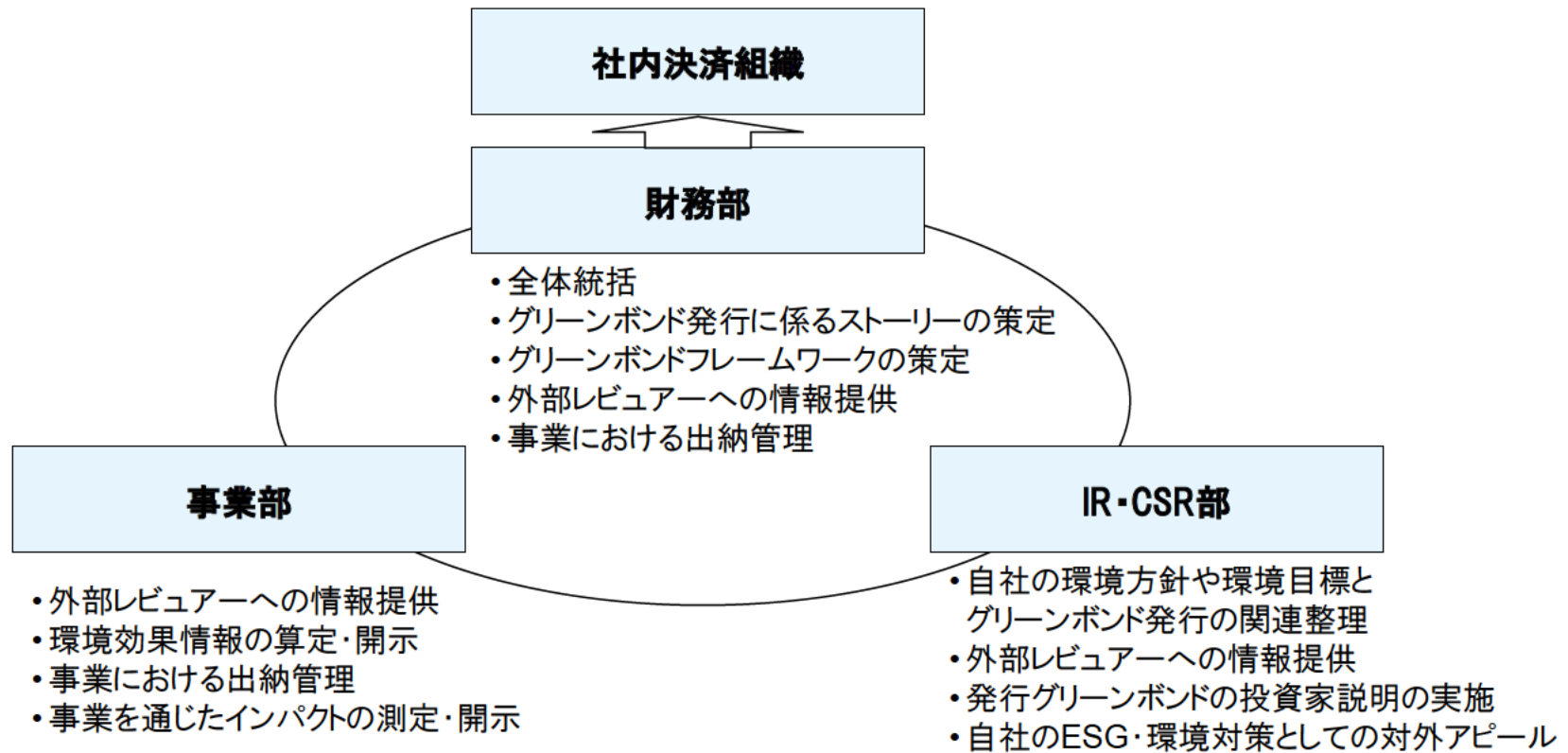
※日本総研がこれまでの先進発行体へヒアリングにうかがった際に、上記の言及があった企業を抽出。ヒアリング時に言及されずとも、同様の効果を感じている発行体は可視化されておらず、実際の数値は上記より多いと想定する。

出所：日本総研作成

## 部署横断的な社内の協業体制の構築

グリーンボンド発行主体となる財務部が、グリーンプロジェクトを実施する事業部、効果的なESG情報開示を担うIR・CSR部を巻き込み連携することで、対外訴求効果の高いグリーンボンド発行が可能です。

理想的な連携の例



出所：日本総研作成

## グリーンボンド発行をご検討されている企業・自治体様へのメッセージ

## 国内グリーンボンド発行の動向まとめ

- ① 国内のグリーンボンド発行額は増加
- ② 発行体の業種も、海外にないほど多種多様
- ③ 先進発行体は、グリーンボンド発行コストに見合う  
具体的メリットや効果を実感している
- ④ 初回発行で仕組みを構築すれば次回以降のコストは大きく減少